

生徒が下校した校舎で、先生方による「不審者対応訓練」が実施されました。

今回の想定は「施錠されていない出入り口から不審者が侵入し、校舎内を徘徊する。教員の呼びかけに応じず、刃物をもって暴れる」というものでしたが、「どこから不審者が侵入し、どのような動きをするのか」といった詳しい情報は“あえて”先生方には伝えられていませんでした。「言われたことを、ただやるだけ」という受け身の訓練ではなく、「目の前で起こっていることをもとに、今何をすべきか自分の頭で考え、他の先生方と協力して乗り越える」という“探究する訓練”だからです。

警察官の方が演じる“不審者”は放送室横の出入り口から侵入し、7 年教室付近へ。呼びかけを無視し 8 年教室へと移動すると、先生方は緊急ホイッスルを吹き、教室の施錠をして対応。刃物を振り回しながら前期課程校舎へと移動したところで、さす又をもった先生方が駆け付けて制圧しました。

最後はプロジェクトルームで省察の時間。「こういう判断のもと、あのように行動した」、「自分たちはどう対処すべきだったのか？」など活発な話し合いが行われました。最後は警察官の方のお話と、さす又の効果的な使い方講座。一人一人が緊張感を持ち、自分事として取り組む充実した訓練となりました。

緊急ホイッスルを吹きながら不審者を追いかける



さす又を持って駆け付ける先生方



力を合わせて不審者を取り押さえる





前期課程の先生や大学院生も駆け付ける



プロジェクトルームで省察タイム





みんな真剣です



さす又の効果的な使い方を教わる

